

「学問は野暮なものです」

「丸山眞男文庫協力の会」メンバー・東京大学教授 渡 辺 浩

丸山眞男先生の御専門は、「日本政治思想史」でした。そう言うと、「日本に政治思想なんかあるの？」と訊く人さえいます。しかし、あののです。しかも、獨創性に満ち、深い示唆に富む歴史を織りなしてきた、それが。

その上、例えば、江戸時代の絢爛たる儒学政治思想史が無く、その中から産まれた国学・洋学の思想が無ければ、あのようない「明治維新」——それは世界史上の大事件です——は起きなかったでしょう。福沢諭吉がいなかったら、近代日本のかたちはおそらく違っていただしよう。そして、丸山眞男自身の思想も、多くの日本人・外国人の心に衝撃を与え、今も与え続けています。政治思想や政治学の研究自体が、政治思想としての意味を、往々持ちます。

時の権勢を誇る人よりも、黙って思索を深め、静かに机に向かって書いている人が、結局は歴史を変える。そういうことが、良かれ悪しかれ、この世には本当にあると思います。伊勢の松坂で穏やかに暮ら

していた、和歌が大好きな町医者——あの本居宣長ほどに「危険」な人が、徳川時代にいたでしょうか。

軽やかな流行は、また、軽やかに過ぎ去って行きます。しかし、時代を見つめつつ、野暮を承知で、人間の、社会の、歴史の、根本的な諸問題を、改めて真剣に考えぬいていくとき、そこに、人々を深い所で啓発し、徐々に動かしていく思索が生まれることがあります。人生は「洒落」でも「戯れ」でもないのですから。

かつて丸山先生は、私に、「学問は野暮なものです。野暮を恐れてはいけません。」と言われました。私は、正にそのようなことを指摘されたのだと理解しています。そして、東京女子大学図書館丸山眞男文庫は、そうした野暮にして深い思索の一例をじっくりと辿るための宝庫だと信じています。

あなたも、一度、そこを訪れてみませんか。

『東京女子大学学報』五六六号、二〇〇二年一月号所収